

## “ゆっくりと時が流れるコンコード”

水道課主幹 川上 弘一

### 『はじめに』

平成20年度七飯町海外交流研修会の第1回事前研修会が、8月6日に行われ、少し緊張ぎみの今回の派遣メンバー14名（中学生5名、高校生3名、引率教員1名、企業後継者3名、引率職員2名）が初めて対面しました。

今回のアメリカ訪問日程は、10月13日から23日までの11日間で、この日に向け、以後「コンコードの町について」「七飯町の概要や歴史の再確認」「英会話レッスン」等、4回の事前研修を行う中で、訪問メンバーの和も深めながら出発への準備を重ねました。



現在行われている交流研修会の目的は、ホームステイをとおし、アメリカで日本と異なる生活文化に触れることにより、今後求められる国際化への対応に向け、地域の活力となる人材を育てると共に、コンコード、七飯両町の相互理解をより深め、友好の輪を一層広げていくことにあります。

この大意の上から、学生の方はホームステイ先からカーライル高校に通学し、授業をとおしてのアメリカの高校生との交流、

そして、企業後継者の方々はそれぞれの専門業種に於いて、アメリカでの企業経営を学び、今後、各職場で幅広く活用していくことにありました。

その意味にからすると、今回参加されたメンバーは大きな成果を七飯町に持ち帰ることが出来たと思います。

### 『ホストファミリーとの出会い』

10月13日午後9時、訪問団一行はカーライル高校に到着し、これから自分たちがお世話になるホストファミリーとの初めての出会いがありました。

高校には夜遅くにもかかわらず大勢の方々が笑顔で私たちを迎えてくださり、バスを降りる前までの私たちの緊張と不安はすぐに解消されました。

一通りの挨拶の後、それぞれのホストファミリーの紹介があり対面、初めて会う方々なのに、まるで自分の家族が戻ってきたかのように温かく迎えて下さいました。

生徒たちの嬉しそうな姿を見て、私自身も心から安心でき感謝いたしました。

私がお世話になったファミリーは、コンコードの町の中心から15分くらい離れた所に住んでいるアルバート家で、奥さんのジェーンさんと一人娘のケイティ（16歳）の3人家族の家でした。

英語が旨く話せない私でしたが、知っている単語を並べ、身振り手振りで意思表示する私に、何を伝えようとしているのか真剣になって受け止めて下さる優しい家族でした。

この家庭での話を少ししますと、私の家では、夜になると居間、台所、食堂の蛍光灯を全て点けてテレビを見ていますが、この家庭では、必要最小限の灯りだけしか点けず夕食時は食堂だけ、居間でテレビを見るときも居間の明かりを消して見るなど、ものすごく節電に心がけていることが感じとれました。

又、学校の始業時間が7時15分と早いこともあるのか、夜の9時過ぎには就寝し、朝の5時には起床するという、普段経験したことの無いリズムでの生活も体験しました。

食事のメニューも飾らないものばかりで、味付けも薄く、野菜の素材をそのまま生かした料理が多く、私がイメージしていた少し贅沢なアメリカではなく、新鮮なアメリカをこの家庭で感じる事が出来ました。



## 『 コンコードの町並み 』

コンコードに着いた翌日、役場に当たるタウンオフィスを訪問しました。

出迎えてくださったのは、クリストファー・ウェーランさんというタウンマネージャー（町長的な人）で、コンコードはアメリカでも数少ない町制を執っている町であることを話されました。

それは、コンコードでは毎週5人の代表者が集まり、町行政等について討論するが、その状況をケーブルテレビを通して全町民に放映していること。

又、コンコードでは、18歳以上に選挙権があり、諸問題が出たときは選挙での多数決により全ての案件が決まるという、大変興味深い話を聞くことが出来ました。

一歩外に出て、コンコードの町並みを歩いて感じたことは、コンコードには信号機がほとんど無く、私が滞在した間に目にしたのは3箇所だけでした。



車の往来が多い交差点でも、ドライバー同士が譲り合って、車がスムーズに流れていたことに驚くとともに、横断歩道の有る場所では、近くに人影が無くても、車は横断歩道の手前で必ず止まり、左右をしっかりと確認する等、交通マナーが非常に良いのには感心しました。

又、木材問屋を訪れた時でした。広い敷地内に数多くの種類の木材や材料が山のように積み重ねられていました。

品物を仕入れに来た車は、敷地内で木材や材料を車に積み終え、出口で1枚の明細書を店員に渡していました。

店員は、積荷を確認するでもなく、なんと買った側の申告だけでOK、お互いの信頼と信用の上で商売が成り立つアメリカ人の気質に感動を覚えました。

そして、コンコードは、なんと言っても歴史のある町で、1775年のアメリカ独立戦争の最初の戦場地であるノースブリッチという橋があることで有名で、現在ここは、

ミニットマン国立公園となっていて、世界中から観光客が訪れる町でもあります。

町の中心街はけして派手ではなく、のんびりと散歩したくなるような町並みで、一歩離れた住宅街は、まるで別荘地を思わせるたたずまいがありました。

日本ではなかなか見ることの無い、広い敷地に大きな家、中には、プールやゴルフの練習を持つ家も少なくありませんでした。

この町に住んでみると、人々もそうなのか、のんびりとゆっくり時が流れているのを感じる事が出来ました。

## 『ボストンにて』

コンコードで6日間のホームステイ生活を終えた私たちは、帰路の途中、隣り街のボストンに立ち寄りしました。

ボストンは、人口60万人で高層ビルと古いレンガ造りの家とが調和した、それぞれの時代のたたずまいを表している街でした。

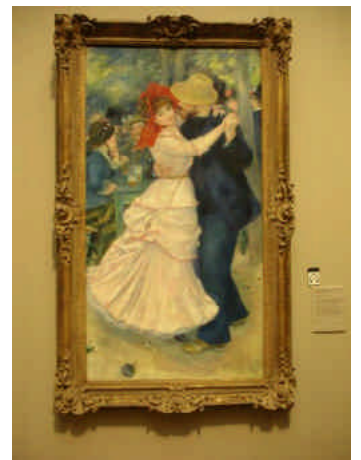
何故古いレンガ造りの家そのまま残っているかと言えば、ボストンでは地震が起きないので、古い建物が何百年もそのまま残っているのだそうです。

そして、私たちは世界的な美術品が展示されているボストン美術館を見学しました。

館内には、とても1日で見ることの出来ないほど多くの美術品が展示されていました。

この美術館でとても驚いたことは、ゴッホ・ミレー・ルノアール等の超一流の絵画をすぐ目の前まで近づいて、見る事が出来るという事でした。

日本では、近寄れないようにテープで仕切られ、尚且つ警備員が立ち、遠くから観賞することが普通なので、日本人のモラルやマナーが外国に比べ少し悪いのかも知れないと、考えさせられる場面がありました。



ボストンからニューヨークまでは、アムトラックという列車に乗り移動しました。

ボストン駅の待合所で、荷物占用のポーターに一人2ドル支払うと、大きなスーツケースやバッグを列車内の荷置き場まで運んでくれ、下車のときも列車から駅の待合室に下ろしてくれました。

皆、大きな荷物を両手に持っていましたので、大変助かりました。

ずいぶん昔の記憶になりますが、たしか日本でも駅や連絡船の待合室にこのようなポーターさんがいたと思い、懐かしい一面も見えたような気がしました。

又、ボストンの街では、2万円以下の商品には消費税が掛からないそうす。その理由は、2万円以下の物は日常使用品としての一般消費品だからだそうで、その代わりに2万円以上の物は高級品の扱いとなり、15%の高い消費税が掛かるそうです。道理として、なるほどと納得するところがありました。

## 『 今回の研修に思う 』

今回、アメリカでの11日間に亘る交流研修、出発前の事前研修会では、私も含め、ホームステイに不安な一面を覗かせていた参加メンバーでしたが、アメリカでの素晴らしい生活文化を体験し、日を増すごとにもう少し長く滞在していきたい、と思う気持ちになったのは、私だけでなく、メンバー全員同じ思いだったそうです。

今回の研修をとおし、私が感じ取ることの出来たアメリカの姿は、

- ・「家族、郷土に対しての強い愛情」
- ・「初対面でも家族同様、温かく迎えてくれる気質」
- ・「自分を飾る事無く、はっきりと自己主張をする」
- ・「人に対する信頼と信用度が高い人柄」

以上のようなことを、強く感じ取ることが出来ました。

言葉や習慣の違いに戸惑うことも多く有りましたが、アメリカでの日本と異なる生活文化に触れたことにより、貴重な体験を積ませていただくことが出来ました。

この体験を通して、日本の良いところを再認識することが出来、又、改めるべきところを知ることが出来たと思います。

そう言う意味に於いても、今回の参加メンバーも、10月7日の壮行式で一人一人が話された抱負、又、決意については、当初の目的を十分に達せられたのと思います。

研修会での素晴らしい経験を一生の宝物とし、これからの人々との出会い、そして、今後の人生に必ず役立てられるものと考えます。

近い将来、七飯町にも必ず国際化の波が寄せる時が来ます。

その時は、今回参加された方々が、先頭に立って活躍されることを心から願うものがあります。



最後になりますが、今回の研修会訪問団の受け入れに対し、細やかなスケジュールの作成をはじめ、毎日朝早くから夜遅くまでお世話下さいました、コンコードCCNN（コンコード・カーライル・七飯ネットワーク）の皆様、心より感謝し、お礼を申し上げます。今回の研修の報告とさせていただきます。